



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

今年の秋も収穫が見込まれます



地上のあらゆるところで気候変動に見舞われている中、われらが谷戸はつつがなく太陽と雨の恵みにあずかっています。草の勢いにやっと追いつくように、刈ったり抜いたり作業がまだしばらく続きます。

教職員補助活動 8/29 < 4p 参照 >

谷戸往来 1

刈払機講習会 7/20(水)

事務局員5名が参加しました。草刈り機を操縦するのは雑木林管理班が中心でしたが、これからは事務局員も頑張ります。



高校生ボランティア活動受け入れ

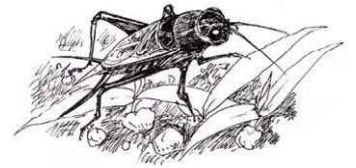
7/24(日)田の草取り、31(日)畔の草刈り9名。厳しい暑さの中、慣れない作業を笑顔ではつらつと働きました。感想は「楽しかった」の嬉しい一言。

子ども里山体験 8/20(土) 谷戸の紙芝居モデルの川上さん(台在住)と谷戸あるき、案山子作りをしました。子どもたちが火をつけて釜戸でもち米を炊いて、自分たちで作った竹の器、竹コップで夕ご飯をいただきました。昔遊び、紙芝居、夜の谷戸探検をして貴重な時間を過ごしました。



谷戸の昆虫で最も特徴的なのは、ホタルでもチョウでもなく、バッタやコオロギです。市内の緑地でも、これほど多くの種類のバッタやコオロギがいる場所はほかにはないでしょう。里山の保全作業、土手や畔の草刈り、畑の除草、稲作が、バッタやコオロギを守っています。これらをエサにするカマキリが多い場所でもあります。

●**畑の除草とエンマコオロギなど** コオロギ類には、畑の草取りで維持される裸地(土がむきだしになった場所)と、丈の低い草地(足首以下)が必要です。畑をやめると数年でエンマコオロギなどは姿を消してしまいます。昔からある畑を維持することがいかに大切かわかります。



●**田んぼの畔の草刈りとイナゴ、コオロギ** 谷戸の田んぼの生きものはすべてが貴重ですが、昆虫も例外ではありません。イナゴという名前のおり、稲と関係が深いイナゴ、畔の草地に棲む、タンボコオロギやヤチスズなどは、一般的な緑地や公園ではほとんど見られません。

●**林の管理とフキバッタ** 林に棲むバッタやコオロギ類は少ないですが、散策路沿い(林のふち)には、フキバッタ(タンザワフキバッタ)やウマオイ(スイッチョンと鳴く)がいます。谷戸ではほかの緑地以上に多いようです。散策路沿いや林の下草刈りで、植物の種類が多いことが関係しているのでしょう。

●**土手の草刈りとバッタ** 畑や田んぼの土手を草刈りすると草の根がしっかりとほり、土手が崩れにくくなりますが、昔からの野草の保全につながっています。チガヤという植物は土手を固める効果が大きく、ショウリョウバッタモドキという貴重なバッタが棲んでいます。

●**湿地の保全とヒメギス** 昔からの里山管理にはありませんが、現在の谷戸(里山)では、湿地の保全も大切な作業です。放任しているとツルで覆われて、湿地らしい環境がなくなってしまうからです。湿地のアシ原やオギ原などには、ヒメギス(黒い大きなキリギリス)やキンヒバリ(小さなコオロギ、ホタル観察の時、鳴いている虫)などが棲んでいます。畑や土手には見られず、なぜか湿地だけに多く見られます。

●**広場の管理とバッタ類** 谷戸のように、一部公園化された里山では、来園者と生きものとの共存をはかる工夫が必要です。谷戸の「野外生活体験広場」では、機械的な草刈りで管理されていますが、当会で、一部、草刈りを控えている部分、時々草刈りをしている部分を残しています。これにより、生きもの隠れ場所や、さまざまな草丈の草地の存続につながり、バッタやコオロギが驚くほどの密度で生息しています。

●**谷戸の普通種は、よそでは貴重種** 谷戸に通っていると、当たり前になってしまいますが、現在の鎌倉市でこれほど里山の生きものがある場所はほとんどありません。谷戸で作業している時間は、知らず知らずのうちに貴重な生きものの保護活動になっているのです。

●**7月～8月の谷戸の自然状況** 異例の梅雨明けの早さで、例年より一ヶ月も早く6月末から猛暑が始まりました。記録的な猛暑ともあいまって、作業者には過酷な夏になっています。春先からの傾向ですが、約一週間ほど自然の暦が早めに進んでおり、セミの初鳴き、コオロギ類の初鳴きなども聞かれました。ヘイケボタルがやや少なめでしたが、これは市内の他の地域でも同じ傾向です。ここ数年アマガエルが少なくなりましたが、今年は小段谷戸のみで鳴き声が聞かれました。アカボシゴマダラという外来種のチョウが今年は特に多いようです。

各班のお知らせ



8/7 稲の花

雑木林管理班



今年は草刈りシーズン早々、猛暑になりました。谷戸の草木はいつも通り元気に成長しています。谷戸の草木は湿気や暑さを味方しているので、それらに負けないよう、草刈りに奮闘しています。

田んぼ班



稲はすくすく実り始めました！除草効果を狙ったしろかき2回も、今年の草の成長の速さに太刀打ちできず、田の草取りに明け暮れました。田んぼの水と谷戸の風が救いでした。今後は稲の登熟を見守ります。



7/17 土手の草刈り

畑班



早い梅雨明けそして戻り梅雨は人間にも野菜にも芳しくありません。ここ2年豊作のにんじんも根付いたのは五分の一程度。場所を変えて植え替えた分けつ長ねぎは、なんとか根付いて一安心。

農芸班



爽やかな梅酢の香りが猛暑を和らげてくれました。塩で揉んだ谷戸の赤ジソを入れた瞬間、鮮やかに変化する赤い色を染料にもしてみたい。2週間後、真っ赤に染まった梅を天日に干しました。谷戸まつりをお楽しみに。

植物育成班



カナムグラ除去に余念がありません。続けることで効果が出てきました。ここで気を抜くと増えてしまうので暑さに負けず頑張りました。除去するとカナムグラに覆われていた草が気持ちよさそうです

自然遊び班



「里山探検隊」 田の草取り：田んぼがめたかった。(5年) 小麦の脱穀：小むぎをガラガラ～ってやるのがさいしょはこわかったけど、やってみたら、楽しかったし回すのもたのしかった。(2年)

生態系保全班



水路の手入れをしますが、手入れの前に必ず水性生物の調査をします。調査をすることにより保全の方法が生きものに適しているか検討するためです。観察すると新たな発見があり、毎回わくわくします。



8/17 水性生物の調査&ヤマサナエのヤゴ

谷戸の生きもの

アキアカネ 「夕焼け小焼けの赤とんぼ」

水田地帯で古くから親しまれた赤とんぼだが、農薬の使用によって各地で減少が著しい。まだまだ健在な山崎の谷戸では6月に田んぼで羽化すると暫く（1週間程度？）は周辺で過ごし、その後標高の高い高原や山岳地帯を目指して飛び立っていく。どこへ行くかは分からないが大山あたりかな。暑い間はそこで過ごし、通常は秋雨前線の通過を契機に平地に降りてくる。山崎の谷戸に来る個体が谷戸出身かどうかは分からないが、多分鮭のようなわけにはいかないとされる。10月になって稲刈りが終わった後の「本田」は典型的な産卵場所。活動はよく晴れた日の午前中から正午頃がピーク。雌雄が連結したまま飛び回り、メスは腹端で水面や泥を連続的に打って産卵する。成虫は12月まで見ることができ、その頃になると日当たりのよい暖色系の所にとまりたがる。終活期の老人が日向ぼっこをしている感じかな。（たのくろまめお）



未熟個体(6月)「小段谷戸」



成熟オス(10月)「本田」



交尾(10月)「本田」



終活オス(12月)「本田」

谷戸往來 2

絵本ライブ「平和って、いいね！」で紙芝居上演 8/26(金)

鎌倉市在住の絵本作家長野ヒデ子さんほか十数名が、自作の読み聞かせを披露する催しで、3年ぶりに開催されました。当会自慢の名作の一部を披露。紙芝居は、当会の子ども対象のイベントや小学校の体験学習でも人気です。



教職員補助活動 8/29(月)

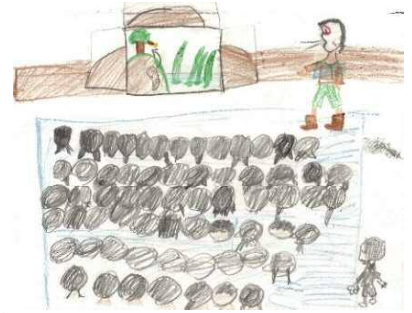
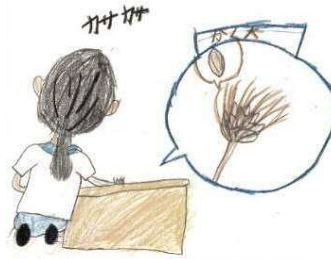
深沢小、富士塚小、小坂小、教育支援教室ひだまりから、総勢24名の先生が保全作業をしました。子どもたちのために一生懸命草刈りをしている先生の姿が印象的でした。子どもたちの様子を聞けるのも嬉しいし、こちらが大切にしていることも伝えられる貴重な時間です。

体験学習

小坂小3年 6/27

★とくに楽しかったことは、お茶につかうお米のような形をしている大むぎの実をとる作業です。大むぎの実をとるとき、大むぎの実についている細い糸のようなものがたくさんついていて、少しいたかったけど、実がほろほろと落ちていて、見るのも楽しかったし、やるのも楽しかったです。

★かみしばいを聞きました。そしてぼくはびっくりしました。なんとホタルは千こもたまごを生むのに3びきしかせいちょうになれないのです。ぼくは、ホタルを見るだけにしようと思いました。



富士塚5年 田の草取り 7/7

★草むしりをやるのか・・・と思いきや、なんと全然ちがう作業でした。内容はいねの根っこのまわりを手でかくという作業でした。こうすることで根に酸素がいざわたり、よく育つそうです。



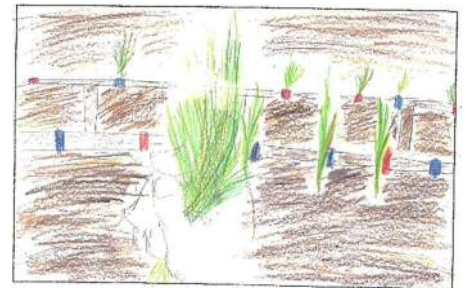
★(草取りを)おわった後、紙しばいやってて、それみて、私小さいころ家の前の川でホタルめっちゃとってたなって思った。今考えたらゴメンって思った。

深沢小5年 田植え 5/9、田の草取り 7/11

★田植えで使った定ぎにめってある色(赤・青)に合わせて植えるのと、黄色にめってあるところに足でふむということがむずかしかったです。

★いねを植えるのが大変でした。理由はいねが急に浮いてきてしまうことです。なのでボランティアの人たちは「土の中にしっかり植えて」と言っていると分かりました。そして、なるべく田んぼの中にあなをあけないということはかなり大切です。

★ぼくは雑草をとるのは分かるけれど、いねの周りを手でほらなければならぬのかと思いました。その時、思い出しました。はじめに谷戸の会の人「周りをほって、いねにしげきをあたえます。」その言葉にはっとしました。当ぜんだけれど、やる意味があるんだと思いました。



教育支援教室ひだまり

5/30、7/4

★まず、さつまいもの苗を植えました。さつまいもの苗を半分くらい土に植えて、そのあと土の表面をポンポンとたたきます。けっこう強いたたいてもよいみたいです。そして植えたあとに水をまぎます。バケツに入れて手で水をまぎました。これでさつまいもの苗植えは終わりです。次は畑づくりです。スコップを使って畑を耕しながら、雑草を抜きました。これで全部の作業が終わりしました。そしてこのあとはお昼の時間です。やっぱり頑張った作業したあとのお弁当はおいしかったです。

★田んぼを見て、いねが思ったより大きかったのでびっくりしました。田んぼの中に入って田の草取りをしましたが、雑草がほとんどありませんでした。なので、いねのまわりをかいて空気を送ることをしました。

★昨日、中央公園でじゃがいも掘りをしました。始めはボランティアさんに教えてもらいながらやっていましたが、途中から土が硬くて掘れなくなってしまいました。そんなとき、となりにいた友達が助けてくれて、掘りをすすめることができました。じゃがいも掘りでこんなに体力を使うとは思っていなかったもので、帰るころには体中痛くなりました。

9月

- 3日(土) 田 すがい作り
 4日(日) 田 すがい作り ☆
 雑刈り払い機で草刈り ❀
 講座「谷戸の植物観察」☆
 試食の日
 5日(月) 畑 大根の種蒔き ❀
 7日(水) 植 秋の野草観察 ❀
 農 麦わら細工(しおり作り) ❀
 10日(土) 生 虫の音を聞く ❀
 11日(日) 田 はさ作り(田んぼ横) ❀
 畑 草取り、草刈り ☆
 18日(日) 田 はさ作り(もめんばたけ奥) ☆
 19日(月) 畑 大根の間引き、長ねぎの土寄せ
 25日(日) 田 稲刈り準備 畔の草刈り
 26日(月) 畑 かぶ・冬菜の種蒔き ❀

10月

- 1日(土) 生 虫の音を聞く ❀
 2日(日) 田 稲刈り
 5日(水) 植 湿地の花の観察 ❀
 8日(土) 田 稲刈り ☆
 9日(日) 田 稲刈り ❀
 10日(月・祝) 田 稲刈り
 16日(日) 田 田んぼ周りの道具片付け・溝切り
 雑 雑木林を歩いて調査 ❀ ☆
 自 里山探検隊「さつまいも掘り」
 17日(月) 畑 さつまいも掘り ☆
 19日(水) 農 小麦選別・製粉(製粉機) ❀
 22日(土) 田 脱穀
 23日(日) 田 脱穀 ☆
 畑 大根の間引き、草取り ❀
 雑 雑木林の下草刈り ❀
 かまくらレンジャーズ
 試食の日
 24日(月) 畑 絹さやの種蒔き ❀
 30日(日) 田 脱穀(予備)、粃干し、はさ片づけ
 雑 雑木林の下草刈り ☆
 鎌倉中央公園フェスティバル
 31日(月) 畑 落花生の収穫

11月

- 3日(木・祝) 田 粃干し、溝切り、畔土寄せ
 5日(土) 田 粃干し、溝切り、畔土寄せ
 6日(日) 田 粃すり・精米、わら切り ❀
 雑 雑木林の除間伐
 自 こども里山一日体験
 「たのくろ豆の収穫」 ▶
 9日(水) 畑 たのくろ豆の収穫・吊るし干し☆
 生 野鳥観察入門 ❀
 13日(日) 田 粃すり・精米、わら切り
 雑 雑木林の除間伐 ❀
 14日(月) 畑 さつまいも掘り・洞入れ ❀
 16日(水) 農 たのくろ豆殻出し・選別 ❀
 20日(日) 田 粃すり・精米、わら切り ☆
 自 父と子の里山体験 ▶
 21日(月) 畑 さつまいもの洞入れ
 27日(日) 秋の谷戸まつり
 畑 にんじんの収穫

☆ 谷戸塾 ❀ 里山一日体験
 各班活動 農家風休憩舎 9:30 集合
 (農芸班、自然遊び班は、10時)
 (虫の音を聞く 山崎口 しいし前 18:30 集合
 20:30 まで)
 ▶ 会員以外の方 参加費500円/組

田：田んぼ班 畑：畑班 雑：雑木林管理班
 農：農芸班 自：自然遊び班
 生：生態系保全班 植：植物育成班

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内

TEL/FAX 0467-47-1164 木曜を除く 10時~16時

ホームページ: <https://yato-yamasaki.sakura.ne.jp>

Eメールアドレス: ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

● 次号(会報 112号)は、2022年 11月に発行予定

● 会費 郵便振替口座番号 00270-6-115647

